

2022 年度:こども園自己評価の報告書

栄町こども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究テーマを「人と豊かにかかわるために必要な遊び」とし、子どもたちが自発的に遊び、生活しようとする環境を考えてきた。職員全体で環境プロジェクトチームをつくり、物的環境を整えていった。子ども達の具体的な姿から、何が必要か考え設定した。 ・魅力文化創造課のアーティスト派遣事業で、5歳児クラスの子どもたちが「アートの力を活用し、非認知能力の形成を促す」事を目的に、活動を行った。 ・各クラス公開保育を実施し、観察から気づいた事を意見交流し、子ども実際の姿から遊びの発展を捉え、具体的な保育課題を確認し次に繋げていった。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として、園児をはじめ保護者、職員の健康状態の把握を行った。 ・消毒の方法をマニュアルに基づき徹底した。 ・毎月、『ほけんだより』を発行し、家庭でできる健康を維持するための取り組み等の情報を伝えていった。 ・手洗い、トイレ使用、マスク着用、体に関する事の保健指導を行った。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、安全点検を行い、危険な箇所は、その都度改善し、全体での確認も行った。 ・災害（地震・火災・水害・不審者）の避難訓練を毎月実施した。1月17日の阪神淡路大震災の日には、当時の震災の写真を掲示し、保護者・子ども達に伝えていった。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の野菜を畑で収穫し、調理して食べたり、給食献立の一部を子ども達がクッキングしたりすることで、食材や調理に関する事に興味を持ち、食べる意欲に繋がっていった。 ・技能職員が、各部屋を訪れ、食材に関する事、栄養に関する事等、年齢に応じて興味を持てる様に、工夫して伝えていった。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や個人懇談を通して保護者の子育てで困っていることをキャッチして一緒に考えてきた。 ・春の保育参加の時に短い時間ではあるがクラス懇談会を組み込むことで保護者同士が知り合える機会を持つことができた。 ・地域の親子とクラスの子ども達との交流がコロナの影響で、できなかった。次年度は状況をみてクラス交流する中で、地域の保護者の子ども理解の機会としていく。
<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育会議の中で、子どもを尊重したかかわりや子ども主体の活動内容になっているか、子どもの現状と教育・保育内容が合っているかを職員間で議論してきた。 ・公開保育を基に子どもの姿や保育教諭のかかわり、活動内容・環境について、具体的に職員間でやり取りをし、評価・反省して次の教育・保育に繋げていった。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が望まれている事、困っている事等を聞きながら、子どもの現状をふまえ、支援の方法等を保護者と共に確認していき、職員間で共有していった。
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ができるだけ研修に参加し、学んだことを他の職員に伝える場を会議で設け、互いに学び合えるようにした。 ・アドバイザー研修で学んだ環境構成の大切さをクラスの環境に反映させていった。 ・全クラス公開保育を行い、職員間の共通理解を深め、より具体的に教育保育を振り返り見直す機会とした。公開保育の様子を撮影した映像を見返すことで、保育課題の共有に繋げることができた。
幼保こ小中の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・就学する各小学校と連携を図り、園での様子を見にきてもらい、丁寧に引継ぎを行うことで小学校に繋げていく機会をもった。 ・5歳児クラスの子ども達が、同じ小学校に行く友達と知り合えるように、近隣園で小学校ごとのグループを作り交流をした。リレー等をし、園内だけではできない経験ができ、お互いの刺激になった。
関係者評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会で、公開保育をする機会をもち、実際の子ども達の姿や保育教諭のかかわりを見てもらうことができた。ひとりひとりを尊重しながら、意欲を引き出せるようにかかわっている保育教諭の姿を評価していただいた。 ・保護者から行事の際に感想を取ったり、アンケートを実施したりして、評価に繋げる機会とした。
その他	<p>感染症対策を行いながら、保育参加、運動会、生活発表会と制限はあったものの行う事ができ、子ども達の友達と関わって活動している姿を見てもらう事ができた。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
子ども達が自発的に遊びを進めていける環境を整え、取り組みの様子を保護者によりわかりやすく伝えていく。	教育保育ガイドラインを活用し、子ども達の姿から必要な環境を整えていく。コドモンなどを活用し、子どもの姿をより具体的に発信していく。
保護者が相談しやすいような信頼関係づくりや、保護者同士が繋がれる機会をもつ。	保護者が子育ての悩みや、不安に思ったことを相談しやすい園を目指す。職員が相談相手として安心感を持ってもらえるよう、送迎時のやり取りや懇談などで、保護者の思いを丁寧に聴いていくことを職員間で共有する。

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立 栄町 こども園

園長名 勝田 美智子